

## Si-R G200 V02.53 変更内容一覧

### □機能追加・改善

No.	項目	追加内容
1	OSPF	LSA数が装置上限値に達した場合だけでなく、動作保証できるマニュアル記載の最大値を越えた場合にもシスログ出力するようにしました。
2	IPv6	RAプレフィックス更新に連動して、指定したインタフェースのoffline/onilneを行うインタフェーストリガ対応を行いました。 ・lan ipv6 ra recv triggerコマンド
3	自動設定	ENTERボタン誤操作による自動設定モードへの移行を回避するため、自動設定モードへの移行を抑制するコマンドを追加しました。 ・auto-config suppressコマンド
4	VRRP	VRRP-ADパケットのdraft-ietf-vrrp-ipv6-spec-08対応を行いました。

□修正内容

No.	影響範囲	内容
1	V01.00～V02.52	接続先監視時間設定を削除し動的定義反映を行うと、監視時間が1秒間隔となる。
2	V01.00～V02.52	PIM-SMでのマルチキャスト通信時に経路作成されず通信できない場合がある。
3	V01.00～V02.52	IKEv2(自側アドレス不定構成)使用時、IKEネゴシエーションに失敗しVPN通信できないことがある。
4	V01.00～V02.52	ether定義の動的定義変更時に、影響を受けないはずのetherポートが一旦リンクダウン/リンクアップすることがある。
5	V01.00～V02.52	IPsec/IKEv2接続において、DPDダウン検出後に長時間通信できなくなることがある。
6	V01.00～V02.52	IPsec/IKEv2接続時、SA更新が行なわれると対向機側で接続先監視エラーが発生することがある。
7	V01.00～V02.52	複数のバックアップポートグループ定義時、バックアップポート対象のether定義の動的定義変更を行うと、定義変更対象外である別グループIDのバックアップポートグループに属するetherポートがリンクダウン/リンクアップする。
8	V01.00～V02.52	装置アドレスとして不適切なアドレスが設定された状態で、動的定義反映にて正しいアドレスに修正しても通信ができない状態が継続する。
9	V01.00～V02.52	パケット契機での自動発信(リダイヤル)抑止が機能しないことがある。 データ通信モジュール経由での自動発信を3分間に2回までに制限しているが、それ以上の回数発呼可能となり以下のシスログも出力されず発呼抑止できないことがある。 「protocol: autodial locked by redial」
10	V02.11～V02.52	UPnP機能使用時、装置が再起動することがある。
11	V01.00～V02.52	経路情報関連コマンドでのUpTime表示が不正な時間値になる場合がある。
12	V02.50～V02.52	EtherIP構成において同一remoteインタフェースに複数の接続先(ap)を定義した場合に、EtherIP通信できなくなる。
13	V02.50～V02.52	LANセグメントをEtherIP構成にて延長時、EtherIP経由の通信ができなくなる。
14	V02.11～V02.52	通信異常発生を契機として装置内の経路情報が削除された後に、VPN通信できなくなることがある。
15	V02.50～V02.52	ブリッジグループ外との間のルーティングを行わない設定にもかかわらず、ブリッジグループ内からブリッジグループ外へパケット転送が行われる。
16	V01.00～V02.52	テンプレート接続(AAA構成)時、IKEネゴシエーション処理中に装置が再起動することがある。
17	V01.00～V02.52	テンプレート着信機能によりIPsec接続時、“show interface summary”コマンド表示にてインタフェースエントリ数が適切に表示されない。